

クマ自動検出AI・ 通報システムのご紹介

環境省によれば、2020年度のツキノワグマの出没件数は約2万件で、比較が可能な記録が残る2009年度以降、出没件数、人身被害人数が過去最多と公表しています。市街地における出沒事例として、学校や商業施設、ゴルフ場に侵入するケースが発生しています。このほか、果樹などの農作物被害も報告されています。このような現状を踏まえ、北陸電力株式会社新価値創造研究所では、クマとそれ以外の類似した動物の大量の画像データを学習させ、カメラの画像からAIがクマを自動で検出・通報するシステムを開発しました。2021年度に、富山県では県と共同で実証実験を実施し、石川県小松市では試験導入されました。現在、複数の自治体で予算計上され、導入を予定しています。



システムイメージ

※静止画だけでなく、動画にも対応可能

